

第一回自治体子ども計画策定ガイドライン検討のための有識者会議 議事要旨

1. 日時：令和5年11月27日（月）13時30分～15時

2. 場所：オンライン会議

3. 出席者

（有識者）

吉永真理（昭和薬科大学薬学部臨床心理学研究室教授）

牧瀬稔（関東学院大学法学部地域創生学科教授、関東学院大学地域創生実践研究所所長）

園田三恵（滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局局長）

副島由理（東京都豊島区子ども家庭部部長）

板東美明（北海道剣淵町住民課課長）

（こども家庭庁）

清原慶子（こども家庭庁長官官房総務課参与）

佐藤勇輔（こども家庭庁長官官房総合政策担当参事官）

新田義純（こども家庭庁長官官房総合政策担当付計画係参事官補佐）

万木尋己（こども家庭庁長官官房総合政策担当付企画調整係）

野村祐喜（こども家庭庁長官官房総合政策担当付計画係）

（事務局）

社会システム株式会社

4. 概要

(1) 事業内容、会議目的、出席者、スケジュール

資料について説明。出席者より自己紹介。

(2) こども大綱の動き

資料について説明。

(3) ガイドラインの構成案

資料について説明。

（主なコメント）

- ・ガイドラインに書けるのであれば、ここまでがマストであって、ここからは自由裁量である等、整理しておかないと結果的には全国一緒になってしまう。また、計画の骨子とかひ

な形みたいなものを示すと全部同じ計画になってしまう。国のこども大綱はこうだから、この範囲は勘案してほしいとか、ある程度の大枠みたいなものを丁寧に書きつつ、地域の実情に応じたものをつくっていくことが大事なのだとということをちゃんと前面に出していくこと。同様にKPIも国から具体的な設定値を打ち出していくべきではない。自治体内で、上位構想とか基本計画というものがあつた上で各分野のものが成り立っているはずなので、むしろそれらと紐づく形に自治体こども計画も策定されていくことが大事。

- ・もし作れるのであるならば、県と政令市と市町村に分けてやったほうがいい。
- ・好事例は成功事例ではない。ということをしっかり書くこと。今回ここでの好事例というのは、既に一体的な計画を立てて行っている団体であつて、あるいはこどもの意見聴取を積極的に行っている事例であることをしっかり書くこと。

(4) 関連法令等の整理

資料について説明。

(5) 好事例自治体調査について

資料について説明。

(6) 好事例自治体ヒアリングについて

資料について説明。

(主なコメント)

- ・計画策定にあつた担当職員数、教育委員会や都市計画部局等の連携の工夫はどのようにしているかを聞いてほしい。
- ・計画に記載する施策の予算的裏付けあるか聞いてほしい。
- ・現行、次期計画の頁数を聞いてほしい。できれば短い計画であつて、全てが網羅されるというのがベストだと思うので、そんないい事例があると良い。
- ・どのようにしてこどもが分かるようにしているのか（最終的に計画を別冊にするのか）様々な手法も含めてヒアリングをしていただければ。
- ・アンケートの実施手法、困難を抱えるこども、若者等、異なる対象ごとの意見聴取にあつた工夫はどのようにしているかを聞いてほしい。

以上